

2014年度 高等部人権教育の取り組み

1 高等部人権教育目標

「自己を表現し、仲間とともに考え行動する生徒を育てる」

＊（視点別の指導重点目標）各グループ・段階等の目標は別紙参照

2 人権教育目標達成に向けて

高等部の生徒には、本校中学部より進学してくる生徒の他、県内の中学校より入学してくる生徒たちも数名いる。実態としては、一人一人の生徒たちが様々な学習を積んで入学してきてはいるが、全体的に自分の思いを堂々と表現することが苦手であり、特に、少人数の親しい仲間の中では自分の意見が言えても、より大きな集団や新しい人間関係の中では、恥ずかしがったり引っ込んでしまったりする傾向が見られる。そして、このような自信のなさは、裏を返せば仲間づくりの不十分さからもきており、何でも話せるという安心感があってこそ初めて自分の思いが表現できることを考えるとき、仲間づくりの重要性を再認識させられる。また、過去の経験の中で、自分が大事にされていると感じることの少なかった生徒たちの多くは、自尊感情を持てず自信をなくしたり、投げやりになったりして、目標を持ちにくい。特に近年は、障がいの多様化や家庭環境等の複雑化などにより、心の安定が難しく、学習に向かう以前の生徒たちも見られ、集団指導が難しくなっているのが現状である。教師側の生徒理解や心に響く働きかけが一段と求められてきており、日々の生活そのものが人権教育と考える。と同時に、生徒の実態や進路に合わせた学習の大切さを改めて考えるところである。

生徒たちは、日常の係活動や選んだ役割を果たした達成感、行事を成し遂げた充実感などから、少しずつ自信をつけていく。また毎年2回ある現場実習では、自分の進路を考え、目標を決めてやり遂げようと努力した結果、満足感や成就感を味わったり自信を得たりする生徒も多い。しかし、自分のよさや課題を見つけること、自分で進路決定をすること、自分の障がいを知り、受け入れることなどに対して難しさがあったり、卒業後の生活になかなか生かされなかったりといった課題もある。

卒業後、社会に出ていった生徒の一人一人が職場や地域、あるいはその他の新しい環境の中で、生き生きと生活していくことを私たちは願うが、障がい者への理解が深まりつつある現在においても、障がいのある人たちのことについて知らなかったり障がいがあるために除外しようとしたりする人たちも社会にはまだ多く見られ、障がい者理解に対する啓発が必要である。と同時に、本校で学ぶ生徒たち一人一人がありのままの自分と向き合い、自信や誇りを持って自分らしく生きていけるよう、自己理解や他者理解を深める学習を実態に応じて可能な限り実践していかなければならないと考える。また、お互いに認め合い、協力し合える集団が基盤にあることは重要だと考える。

以上のことから、本学部では、障がい者差別を解消し生徒一人一人がより生き生きと生きていくために、自分に自信や誇りを持って自己表現できる力や行動していく力、そして、それを支える仲間づくりが最も必要であると考え、この目標を設定した。この目標の実現のために、全教科・全領域で取り組んでいきたいと考える。

3 具体的な取り組み

(1) 自分の思いや要求、考えを自分なりの方法で相手に分かりやすく伝える力を育てること

- ・学級の活動や学部集会、委員会、行事等の中で、生徒が活躍できる場面や多くの人の前で発表する機会を設けていく。
- ・人との関わりの場면을意図的に仕組み、人と関わる経験を積み重ねる中で自分の思いを伝える方法を身につけていけるようにするとともに、相手の気持ちを察することのできる心を育てていく。
- ・生徒の情緒の安定を図るため共感的態度で接するとともに、生徒の実態に合わせた表出方法を工夫する。
- ・生徒の意思表示を積極的に求めていくとともに、言葉や動作などとして表出されるのを待つ姿勢を持つ。
- ・生徒の実態に合わせ、場に応じた言葉遣いや相手の気持ちを考えた言葉遣いを指導していく。

(2) 自分のすべきことを選択し、最後までやりぬく力を育てたり成就感が味わえるようにしたりすること

- ・生徒の役割や今すべきことをはっきりさせ、目標を持って自分の力を十分に発揮できるよう教材や教具を工夫する。
- ・それぞれの生徒の実態に合わせて適切な課題を設け、それが達成できるような支援をする。また、生徒のつまずきや失敗を前向きにとらえ、次へのステップとなるような指導をしていく。
- ・係活動や委員会活動を始め、作業学習や現場実習を通して、働くことの意義や喜びが体感できるようにする。また、自分で課題を見つけたり、自分に自信を持ったりできるような場の設定を工夫する。

(3) 自分の進路について考える機会を増やすこと

- ・現場実習の目的や実習先、自分の課題について考える学習に取り組む。
- ・卒業した先輩の生活について知る機会をつくる。
- ・障がい者の権利や利用できる機関について知る機会をつくる。

(4) 自分の考えを持ち、仲間とともに考え、認め合って協力する力を育てること

- ・小グループ、学級、学年やコース、学部や学校全体など、様々な学習集団を教育活動の中で効果的に取り入れ、いろいろな人と一緒に学習する経験ができるようにする。
- ・友だちの問題を学級などで取り上げ、みんなの問題として考える機会を持つ。
- ・自分や友だちのよさや違いを知ったり認め合ったりする学級の雰囲気づくりをする。
- ・生徒の実態に合わせて社会的立場の自覚を深める学習に取り組む。
 - ＊ 自分にできることやできそうなこと、また、できないことを考え、自分のすべきことを最後までやり抜き、できることを増やしていこうとする。
 - ＊ できないことがあっても、それは恥ずかしいことでも悪いことでもないと分かる。
 - ＊ 自分のよさが分かり自信を持つとともに、ありのままの自分を受け入れ、自尊感情を持つことができる。
 - ＊ お互いの良さや違いを認め合ったり支え合ったりして、仲間とともに堂々と生きていこうとする力をつける。
 - ＊ 自分の障がいを知り、自分に必要な補助具を使ったり周りの人に支援を求めたりすることの大切さが分かる。また、障がい者としての自分の権利や利用できる機関等を使おうとすることができ

(5) その他

- ・生徒のつぶやきやサインを見逃さず、ニーズに応じた指導を全教科・全領域を通じて行う。
- ・生徒の実態や課題等について情報共有会や学部会で絶えず共通理解を図り、支援や指導の方法について情報交換をする。
- ・教師自身が人権意識を高め、生徒の人格を尊重して指導にあたる。
- ・生徒の実態把握のため、前の学校や学部との連携を図るとともに、保護者や関係諸機関とも連携を図り、協力が得られるようにする。